

日本規格協会は、総合標準化機関です。

2014 IEC 東京大会 実行委員会の事務局を担当しています。

規格の開発

国際標準化の支援

国際標準化に関する各種情報の提供、研修・コンサルティング、国際・各国標準化機関との交流、発展途上国への協力などを通じて、我が国における国際標準化の推進をサポートしています。

適合性評価の推進

1994年に審査登録機関として我が国初の認定を受けた品質マネジメントシステムをはじめとし、環境、情報、食品安全等のマネジメントシステム審査登録を通じて企業経営を支援しています。また、JABの認定を受け、我が国で唯一の品質及び情報セキュリティマネジメントシステム審査員の評価登録を行っています。

消費者保護、単位・図記号、マネジメントシステム、情報技術関係などを中心に、JISの原案作成団体として、また、ISO・IECの専門委員会の国際幹事や国内審議団体として、規格の開発を行っています。

JIS規格等普及

JISの発行・販売をはじめとし、ISOやIEC等の国際規格、各種海外規格の販売を行っています。JSAは、ISO及びIECが公式に認めた我が国唯一の提供機関です。また、規格の英・邦訳版や解説本、月刊誌や標準試料などの出版・販売もしています。

人材育成

1949年に我が国初の品質管理講習会を開催して以来、管理技術、規格、標準化などに関する各種セミナーを開催しています。また、「標準化と品質管理全国大会」や品質月間行事を毎年開催し、「標準化」と「品質管理」を広く普及啓発するための活動を行っています。

品質管理検定(QC検定)

日本品質管理学会の認定を受け、2005年よりQC検定を実施しています。QC検定は、産業界を支えるインフラ的の制度として、品質改善・管理の基礎となる品質管理知識の「ものさし」を提供しています。

総合標準化相談室
po@jsa.or.jp

様々な事業により経済社会の発展と国民生活の質の向上を目指しています。標準化に関するお問合せはこちらへ。

一般財団法人

日本規格協会

〒108-0073 東京都港区三田3-13-12 三田MTビル
Tel:03-4231-8503 http://www.jsa.or.jp

JSA

検索

IEC東京大会 いよいよ開幕

世界百数十カ国・地域から参加

11月4日～15日

11月4日から15日まで東京・丸の内東京国際フォーラムをメイン会場に国際電気標準会議(IEC)東京大会が開かれる。世界百数十カ国・地域から関係者が来日し、国内を含めて1500人以上の参加を見込む。従来はなかった大会「スマート・Co-existence and Sustainability」に設定。近年力を入れているスマートグリッド(次世代電力網)などスマート分野に焦点を当てたメッセージだ。日本の得意分野でもあり、活躍の場も広がった。

国際標準、スマート分野に焦点

2014年からIEC会長に就いたパナソニックの野村淳二氏が提唱しているのが「システム・アプローチ」だ。従来の規格開発は太陽光発電や燃料電池など製品単品の仕様や試験方法を主に対象としてきた。ただ、スマートグリッドやスマートビルなど製品単品を超えて、システムとしての性能などが最も重要だ。また、インフラシステム輸出は参加するプレイヤーも多い。受け入れる地元政府以外に、メーカーや金融・保険機関、施工業者、運用会社、保守管理者など幅広い。各社による事業参加の判断材料として、国際規格の存在は不可欠だ。IECにおいて現在進

んでいるインフラシステム関連の標準化は枚挙にいとまがない。海洋エネルギーや送電システム、スマートグリッド、太陽熱発電、鉄道、電力貯蔵システム、水の再利用など挙げれば切りがない。その中で、日本が幹事国や議長、コピニ(主査)を務めている技術専門委員会なども少なくない。例えば、2012年に技術専門委員会新設が認められた電力貯蔵用蓄電システムだ。スマートグリッドの中核を担う大規模蓄電システムの標準化を日本主導で進めら

れる成功事例になりそう。他にもIECにおけるスマートグリッド関連の標準化の動きは活発だ。その内容も、利用場面の整理やスマートメーター(通信機能付き電力量計)、宅内配線、グリッド内の電力制御、家電製品との連携など多岐にわたる。また、スマートシティに関するIEC内での標準化に向けた検討に入っている。ただ、スマート分野の

東京大会 併催イベント

毎年1回開催されるIEC大会は通常、総会、外部の技術専門家に対する最先端の取り組みを紹介するプログラム、14年4月に福島県郡山市に開所した産業技術総合研究所(産総研)の「福島再生可能エネルギー研究所」を紹介するイベントなどが行われる。IEC大会は基本的に各企業などが独自にビジネスコースを設定し、海外の技術専門家に対する最先端の取り組みを紹介するプログラム、14年4月に福島県郡山市に開所した産業技術総合研究所(産総研)の「福島再生可能エネルギー研究所」を紹介するイベントなどが行われる。IEC大会は基本的に

間も長い。産業界の動きと乖離してしまいがちだった。そこで、産業界の声をより聞くようにして、産業界と歩調を合わせ、時には先回りして国際規格を整備する姿勢へ転換しようとしている。システム・アプローチ、特にスマート分野の標準化は日本の産業界にとっても渡り、日立、東芝、三菱電機がそれぞれ国際競争力の高い独自技術を持っている。各社は標準化にも積極的だ。今回のIEC東京大会は世界へ向けた日本の先端技術のショーケースであるとともに、東南アジアなどを念頭に国際標準化の世界で仲間づくりを推進する絶好の機会となりそう。



東京大会の意義



IEC東京大会
組織委員会委員長
(三菱電機相談役)
のまぐち たもつ
野間口 有氏

IEC東京大会が15年ぶり日本で開催されるのは今回で4回目だ。回を追うごとに大会を開催する意義や、わが国の国際標準化における取り組み、今後の期待などについて、IEC東京大会組織委員会委員長の野間口有氏に語ってもらった。

日本で開催するのは今回で4回目だ。回を追うごとに大会を開催する意義や、わが国の国際標準化における取り組み、今後の期待などについて、IEC東京大会組織委員会委員長の野間口有氏に語ってもらった。製品を手にするために重要だと認識される時代になっ

技術の融合で増す重要性

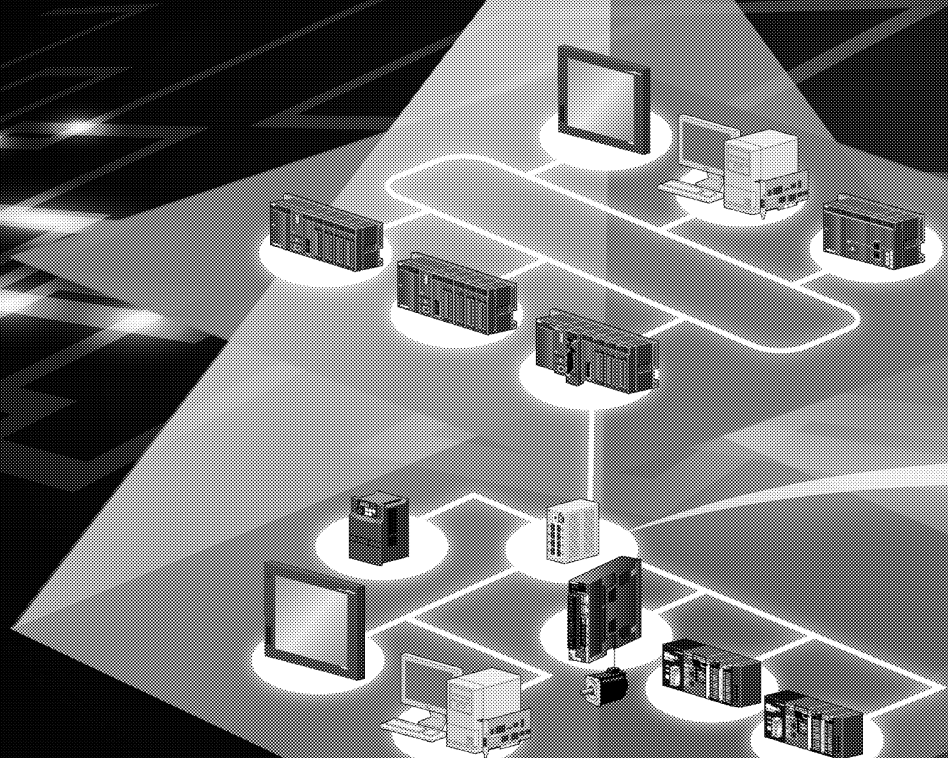
IEC東京大会が15年ぶり日本で開催されるのは今回で4回目だ。回を追うごとに大会を開催する意義や、わが国の国際標準化における取り組み、今後の期待などについて、IEC東京大会組織委員会委員長の野間口有氏に語ってもらった。製品を手にするために重要だと認識される時代になっ

スマート分野で国際標準化すべき20の重要アイテム

送電用広域監視制御システム
1. 送電系統広域監視制御システム
系統用・需要側蓄電池
2. 蓄電池最適制御
3. 蓄電池モジュール
4. 車載用蓄電池の残存価値評価方法
配電網の管理
5. 配電自動化システム
6. 分散型電源用パワコン
7. 配電用パワエレ機器
EMS・デマンドレスポンス
8. デマンドレスポンスネットワーク
9. HEMS (住宅用 EMS)
10. BEMS (商用ビル用 EMS)
11. FEMS (工場用 EMS)
12. CEMS (地域 EMS)
電気自動車 (EV)
13. EV 用急速充電器・車両間通信
14. EV 用急速充電器用コネクタ
15. EV 用急速充電器本体設計
16. 車載用リチウムイオン電池安全性試験
17. 車両・普通充電インフラ間通信
18. インフラ側からの EV 用普通充電制御
AMI システム
19. メーター用アクセス通信
20. メーター通信部と上位システムとのインターフェース

EMS: エネルギー管理システム、AMI: 高度メーター基盤 (経産省資料より)

MITSUBISHI
ELECTRIC
Changes for the Better



CC-Link IE 戦略、さらに拡大中!!

オープンフィールドネットワークは、新たな制御領域へ。

CC-Link IE Control CC-Link IE Field

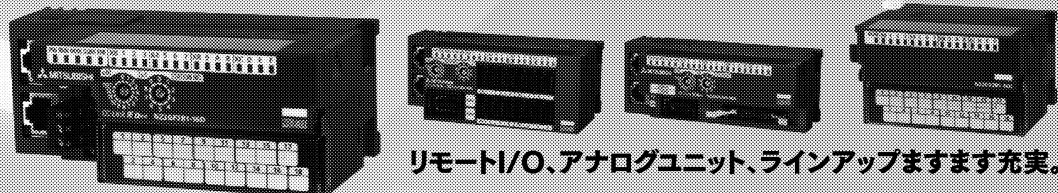
高速・大容量
高信頼

多彩な機能で各種コントローラを統合する、高速コントロールネットワーク。最大リンク点数128Kワードの大容量データにより、増大するレシビビリティデータにも余裕で対応。

オールラウンド
自由な配線性

コントローラ分散制御・I/O制御・安全制御・モーション制御を統合する、オールラウンドなフィールドネットワーク。ラインや装置、機器のレイアウトに合わせてフレキシブルな配線を実現。

CC-Link IE Field 対応。リモートI/O、アナログユニット



リモートI/O、アナログユニット、ラインアップますます充実。

増設可能

増設機により、フレキシブルな拡張が可能となりました。アナログユニットへのI/O増設も可能です。

高速制御

ファストロジック機能により、CPUやネットワークを介さずに入出力制御、高速制御を実現しました。*

直感操作

複雑なネットワーク設定は、ユニットを一覧からドラッグ＆ドロップするだけ。直感操作で簡単です。

※増設ユニットを使用した場合

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa